

# Tokkyo.AI が「知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能」を提供開始

Felo AI

## Overview

リーガルテック株式会社は 2026 年 3 月 23 日、同社が提供する知財 AI プラットフォーム「Tokkyo.Ai」に、ベテラン担当者の思考プロセスを可視化し、次世代の知財人材育成を支援する新機能「AI エージェント」を追加したことを発表した [19](#)。この機能は、特許の検索、評価、出願判断といった一連の業務における専門家の「暗黙知」をデータとして構造化し、組織内で再現・共有可能にすることを目的としている [111](#)。

この背景には、多くの企業で知財業務が特定の個人に依存し、そのノウハウが言語化されずに属人化しているという根深い課題がある [21](#)。特に、AI Transformation (AX) 時代を迎え、発明候補の爆発的な増加と判断スピードの重要性が高まる中、個人の経験に依存した体制は経営上の構造的リスクとなりつつある [21](#)。新機能は、この課題に対し、判断の「プロセス」そのものをデータ化するというアプローチで解決を図るものであり、従来の OJT に頼った育成モデルから、組織として知識を継承・発展させる「再現可能な育成基盤」への転換を促すものである [5](#)。

## 詳細レポート

### 1. 知財業務における構造的課題：属人化する「暗黙知」という経営リスク

多くの日本企業において、知財、技術企画、研究開発といった領域では、長年にわたり重要な判断が特定のベテラン人材の経験と記憶に依存する構造が続いてきた [21](#)。知財部門では、研究開発部門からのローテーションや他部門との兼務担当者が多く、判断基準やノウハウが体系化されていないため、人材育成は個人の経験に依存しがちであった [15](#)。

「作業」ではなく「判断」の喪失 この問題の本質は、単なる業務処理能力の喪失ではない。ベテラン人材が担ってきた真の価値は、「どの技術を取得すべきか」「どの出願を断念すべきか」「競合の次の動きは何か」といった、言語化されにくい「暗黙知」に基づく高度な判断の連続にある [21](#)。これらの判断は、企業の競争力の源泉そのものであるにもかかわらず、その多くがデータとして記録・継承されることなく、担当者の退職や異動とともに組織から失われてきた [21](#)。



AX時代におけるリスクの深刻化 AI Transformation (AX) 時代においては、技術進化のスピードが加速し、発明や特許の候補が爆発的に増加する「知財インフレ」とも呼べる状況が生まれている [2](#) [21](#)。このような環境下で、判断の遅れは競争力の低下に直結する [21](#)。判断を特定の個人に依存し続ける体制は、もはや単なる非効率ではなく、事業継続性を脅かす構造的な経営リスクとして認識され始めている [21](#)。

## 2. 新機能「育成支援 AI エージェント」による判断プロセスの可視化

リーガルテック社が「Tokkyo.Ai」に実装した新機能は、この属人化という課題に対する具体的な解決策を提示するものである [1](#)。

**機能の核心：思考プロセスのデータ化** この AI エージェントは、特許検索から技術評価、出願判断に至る一連の思考プロセスをデータとして整理・構造化する [19](#)。具体的には、ベテラン担当者がどのようなキーワードで検索を開始し、どの文献を評価し、どのような根拠で次のアクションを決定したか、その思考の流れそのものを記録し、再現可能な形で共有する環境を整備する [5](#)。これにより、「なぜその判断に至ったか」という理由の部分が説明可能となり、若手担当者はその思考プロセスを体験することで学習を進めることができる [15](#)。

**従来のツールとの決定的違い** これまでの「Tokkyo.Ai」を含む多くのリーガルテックツールが、特許調査といった「作業」そのものを効率化することに主眼を置いていた [5](#)。それに対し、今回の新機能は、作業の「やり方」や「判断の理由」を形式知として組織に蓄積し、「人」を育てることに重点を置いている点で一線を画す [5](#)。これは、経験依存型の業務プロセスを、組織として継承可能な「再現可能型」へと転換させるための基盤となる [9](#)。

リーガルテック®  
知財AI™カンパニー

知財業務の判断  
プロセスを可視化  
育成支援AI機能

なぜその判断に至ったのか？

— 属人化した暗黙知を構造化し、  
次世代知財人材の育成基盤を強化 —

MyTokkyo.Ai

### 3. 「暗黙知の形式知化」という普遍的課題へのアプローチ

リーガルテック社の取り組みは、ナレッジマネジメントにおける中心的なテーマである「暗黙知の形式知化」を具現化する試みと位置づけることができる [29](#)。個人が持つ経験や勘といった「暗黙知」を、文章や図式といった誰もが理解できる「形式知」に変換することで、属人化を防ぎ、組織全体の能力を底上げすることが可能になる [31](#) [39](#)。

**業界横断的なトレンド** この「暗黙知の形式知化」は、知財分野に限らず、多くの業界で共通の課題となっている。

- **コンサルティング業界:** KPMG ジャパンは、熟練者の経験やノウハウを抽出し、知識基盤の構築を支援する「暗黙知の形式知化エージェント」の提供を **2026年1月**に開始している [17](#)。
- **製造業:** 熟練技術者の持つ勘やコツをデジタル化し、技能伝承を進めるために生成AIを活用する動きが活発化している [33](#) [41](#)。
- **小売業:** ベテラン店員の優れた接客ナレッジを生成AIに学習させ、全スタッフが同水準の対応を再現できる仕組みの構築が進められている [25](#)。
- **行政:** 業務改善や引き継ぎの効率化のため、職員の持つ暗黙知を可視化する取り組みが行われている [35](#)。



これらの事例は、リーガルテック社の新機能が、単なる一企業の製品アップデートに留まらず、AIを活用して組織の知的資産を継承するという、より大きな潮流の中に位置づけられることを示唆している。

#### 4. リーガルテック社の事業戦略と今後の展望

リーガルテック株式会社は、「知財の民主化」を企業理念に掲げ、AI技術を駆使して知財の創出から収益化までをワンストップで支援する知財特化型のAIリーガルテック企業である [248](#)。

提供サービスポートフォリオ 同社は、今回機能が強化されたプライベートAI特許プラットフォーム「MyTokkyo.Ai」を中核に、複数のサービスを展開している [49](#)。

サービス名	概要	出典
<b>MyTokkyo.Ai</b>	AI エージェントを搭載した特許調査・発明抽出プラットフォーム	<a href="#">49 32</a>
<b>IPGenius</b>	組織内の知見を資産化するためのナレッジベース	<a href="#">9</a>
<b>リーガルテック VDR</b>	M&A や知財取引におけるセキュアな情報共有データルーム	<a href="#">49</a>

サービス名	概要	出典
<b>Keiyaku.Ai</b>	知財契約に特化した契約ライフサイクル管理（CLM）ツール	<a href="#">4</a>
<b>IP マーケットプレイス</b>	知財の売買やライセンス取引を促進するプラットフォーム	<a href="#">4</a>

**今後の展開** 同社は今後、知財人材育成を支援するための業界別分析モデルや育成用テンプレートの整備を進める計画である [19](#)。これにより、AX 時代における企業の知財判断力の底上げを支えるインフラとしての地位を確立し、企業規模を問わず導入拡大を目指す方針だ [29](#)。

## 5. 知財人材育成を巡る国家戦略とリーガルテック市場

リーガルテック社の動きは、国の政策や市場全体の動向とも密接に関連している。

**国の後押し：知的財産推進計画 2025** 内閣府が策定した「知的財産推進計画 2025」では、AI 等の先端技術を使いこなして価値を創出できる「創造人材の強化」が国家戦略の柱の一つとして掲げられている [7](#)。政府は、日本企業の AI 利活用率 100%達成や、企業の無形資産価値向上を KPI として設定しており、全社員レベルでの知財リテラシー向上が求められている [7](#)。このような背景から、AI を活用した人材育成ソリューションへの需要は今後さらに高まると予想される。

**拡大するリーガルテック市場** リーガルテックは、法務業務を効率化・高度化するテクノロジー全般を指し、近年急速に市場が拡大している [20 26](#)。その領域は、AI 契約書レビュー、電子契約、CLM（契約ライフサイクル管理）、リーガルリサーチなど多岐にわたる [20](#)。これらのツールは、単に定型業務を自動化するだけでなく、法務担当者がより戦略的な業務に集中できる環境を創出し、法務部門をコストセンターから経営の意思決定を支えるプロフィットセンターへと進化させることを目的としている [18 20](#)。リーガルテック社の新機能は、この大きな潮流の中で、「人材育成」という新たな切り口で市場に価値を提供しようとするものと言える。

- [1. 知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供 ...](#)
- [2. リーガルテック株式会社 – 知財の未来を切り拓く. AI リーガル ...](#)
- [3. 変革コンサルティング – SOLIZE Ureka Technology は](#)
- [4. 企業情報 – リーガルテック株式会社](#)
- [5. 知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供](#)
- [6. Legaltech LLC – Company Profile and News](#)
- [7. 公的支援・専門家活用と AI 時代の知財教育：中小企業が育成する人材像](#)

8. [会社概要](#)
9. [知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供 ...](#)
10. [リーガルテック株式会社](#)
11. [知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供開始 ...](#)
12. [LegalTech | The LegalTech Fund | Legal technology investors](#)
13. [知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供 ...](#)
14. [リーガルテック株式会社のプレスリリース](#)
15. [【PDF】次世代知財システムの解説](#)
16. [リーガルテック株式会社 の企業情報](#)
17. [KPMG ジャパン、「暗黙知の形式知化エージェント」の提供を ...](#)
18. [What is legal tech? Legal technology guide to use cases ...](#)
19. [本公募「次世代コンピューティング技術領域に係る知財戦略調査 ...](#)
20. [リーガルテックとは？主要分野や代表的なツールを網羅的に解説](#)
21. [リーガルテック、AX 時代の知財・技術判断の属人化リスクに ...](#)
22. [会社概要](#)
23. [事業紹介 | 国立研究開発法人科学技術振興機構 - JST](#)
24. [What is legal tech? A guide for law firms - MyCase](#)
25. [生成 AI で接客ナレッジを再現する仕組みとは ～「小売現場の ...](#)
26. [リーガルテックとは？サービスの種類、メリット・デメリット、市場 ...](#)
27. [知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供 ...](#)
28. [リーガルテック株式会社 関連する企業の求人](#)
29. [ナレッジマネジメントとは？AI 時代の導入手順と成功の法則 ...](#)
30. [What Is a Legal Tech Company and what do they do?](#)
31. [【コラム】暗黙知と形式知がカギ！ 製造業の技術伝承・知識 ...](#)
32. [リーガルテック株式会社](#)
33. [多能工化の戦略的価値と生成 AI による人材育成のブレイクスルー](#)
34. [What is LegalTech? Explaining the types of services, benefits ...](#)
35. [行政の「暗黙知」を可視化する 3 ステップ～経験依存から業務 ...](#)
36. [Tokkyo.Ai](#)
37. [DX 成功事例 5 社に学ぶ - 組織を変えるデジタル戦略の 3 つの ...](#)
38. [Legal Tech Company](#)
39. [暗黙知と形式知の違いを解説。課題と実践方法をご紹介します](#)

- 40. [リーガルテック株式会社の会社情報と資金調達](#)
- 41. [AI では生み出せない“知”を育てる——ナレッジ・イネーブリング ...](#)
- 42. [Legal technology](#)
- 43. [リーガルテック株式会社](#)
- 44. [legaltech-llc: Home](#)

## 育成支援 AI 機能が特許業務に与える影響

リーガルテック株式会社が提供を開始した「知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能」は、特許業務に以下のような重要な影響を与えられます。

### 1. 属人化の解消と知識の継承

- 暗黙知の形式知化  
ベテラン担当者の特許検索、技術評価、出願判断といった思考プロセスをデータ化し、構造化することで、これまで属人的だった知財業務を組織全体で共有可能なプロセスへと転換します [189](#)。
- 若手担当者の育成  
AI エージェントを通じて、若手担当者がベテランの判断プロセスを追体験し、学習できる環境を提供します。これにより、経験依存型の育成から、再現可能な育成基盤への移行が可能になります [89](#)。

### 2. 特許業務の効率化と精度向上

- 判断プロセスの可視化  
特許検索や評価の過程で「なぜその判断に至ったか」を説明可能にすることで、業務の透明性が向上します [89](#)。
- 迅速な意思決定  
AX (AI Transformation) 時代における発明候補の増加に対応し、判断スピードを向上させることで、競争力を強化します [18](#)。

### 3. 組織全体の知財判断力の底上げ

- 再現可能な判断基盤の構築

AI エージェントは、特許業務を「経験依存型」から「再現可能型」へと移行させ、組織全体の知財判断力を底上げします [89](#)。

- **人材育成と業務連携の強化**

人事部門や弁理士との連携を通じて、専門人材の育成や協働の高度化を実現します [89](#)。

#### 4. 特許業務の戦略的活用

- **経営判断への活用**

特許の市場価値や事業影響度を数値化する AI 分析機能と組み合わせることで、特許を単なる「守るもの」から「経営判断の基盤」へと進化させます [47](#)。

- **競争優位性の確立**

特許データを活用した戦略的な意思決定を支援し、企業の競争力を強化します [78](#)。

#### 5. 長期的な影響と展望

- **業界全体への波及効果**

この AI 機能は、特許業務の効率化だけでなく、知財業務全体の高度化を促進し、業界全体の生産性向上に寄与します [89](#)。

- **導入拡大の可能性**

リーガルテック社は、業界別分析モデルや育成テンプレートの整備を進め、企業規模を問わず導入を拡大する計画です [89](#)。

## 結論

この育成支援 AI 機能は、特許業務の属人化を解消し、効率化と精度向上を実現するだけでなく、組織全体の知財判断力を強化し、特許を戦略的に活用する新たな基盤を提供します。これにより、特許業務は単なる事務作業から、企業の競争力を支える重要な戦略的資産へと進化するでしょう。

- [1. 知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供 ...](#)
- [2. AI 特許検索の精度を大幅に向上！ユーザーによる AI へ ...](#)
- [3. 12月に急増した特許出願件数の謎、コスト削減につながる AI ...](#)
- [4. リーガルテック社 Tokkyo.Ai、特許の市場価値・事業影響度を ...](#)
- [5. 知財実務は AI でどう変わる？AI エージェント時代の土業戦略](#)
- [6. 知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供 ...](#)

7. [リーガルテック社、大手製造業と特許 AI 活用実証実験を開始 ...](#)
8. [知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供 ...](#)
9. [知財業務の判断プロセスを可視化する育成支援 AI 機能を提供 ...](#)
10. [\(プレスリリース\) 知財業務の判断プロセスを可視化する育成 ...](#)
11. [Japan's AI Patent Surge: SoftBank Dominates](#)
12. [すごい知財 EXPO '26](#)
13. [島津製作所、知財業務を AI で効率化 新会社でサービス外販](#)
14. [Action Plan for Utilization of AI Tech at the Japan Patent ...](#)
15. [AI エージェント導入における法的論点と企業の留意点](#)
16. [2026 年版 法務 AI 活用ガイドブック](#)
17. [Japan: AI and extraterritoriality dominate patent landscape ...](#)
18. [【2026 年最新】 AI エージェントの活用事例 7 選！ AI の導入効果を ...](#)
19. [Artificial Intelligence Patents in 2026: What's Patentable?](#)
20. [NEC の知財 DX 参入で変わる！特許業務の AI 活用と企業価値 ...](#)
21. [AI Patent Protection and Litigation: Key Takeaways for ...](#)
22. [How AI impacts patent portfolio benchmarking](#)
23. [AI エージェントが切り開く会計・監査の未来 後編](#)
24. [AI ガバナンスの構築と法務戦略 - AI×法務の最新動向 | 特集](#)
25. [How AI will overhaul IP firm operations in 2026](#)
26. [The “Gold Rush” in AI and Robotics Patenting Activity. Do ...](#)
27. [The JPO Quick Reads | Japan Patent Office](#)